

電源地域
振興センター事業

活用例
紹介

地域のスポーツ施設を活用した スポーツコミッション機能の設立支援 かりわ 新潟県刈羽村

とうりんぼ 全景



東京電力㈱柏崎刈羽原子力発電所が立地する新潟県刈羽村。発電所近くの砂丘に昨年10月「農業生産」「加工物販」「飲食」「集客」の4つをコンセプトとした地域共生事業施設『ぴあパークとうりんぼ』がオープンしました。『とうりんぼ』には宿泊施設や日本サッカー協会公認の人工芝サッカー場があり、夜間照明と観客席がついたフルサイズのピッチが2面あります。村内にはこのほかにも総合体育館、屋内プール、野球場、テニスコート、陸上競技場などのスポーツ施設が充実しています。

刈羽村は観光資源が乏しいこともあり、地域資源の活用策や観光振興策をこれまであまり検討してきませんでした。『とう

りんぼ』のオープンを見据えて村の総合計画で観光振興を重点施策の一つに位置付け、平成23年度からその検討を始めました。

そのなかで、刈羽村における観光の現状と今後の可能性を分析・検討するため、当センターの専門家派遣事業を活用し、観光の専門家派遣を要請しました。当センターは、この要請を受けて流通科学大学サービス産業学部の高橋一夫教授たかはしかずお（現在は近畿大学経営学部教授）を刈羽村に派遣しました。

そして、高橋教授とともに村の現状を確認したうえで、充実したスポーツ施設や『とうりんぼ』の宿泊交流施設の利用促進を図るためにも、スポーツイベ



総合体育館内でのイベント

ントの開催や合宿の誘致などを通じて地域経済・社会の活性化やコミュニティの再生を図ることを目的とした組織「スポーツコミッション」を設立することを提言しました。

昨年度は調査事業を受託し、研究会やワークショップを開催するなかで、高橋教授とともにスポーツコミッション機能の担い手機関の選定、事業計画の策定、設立に向けた課題の抽出等を実施しました。

今年度も引き続き調査事業を受託し、来年4月のスポーツコミッションの設立に向けて、対応マニュアルの作成や地域の食材を活用したスポーツ合宿向け食事メニューの開発、人材育成などを支援しています。



源土運動広場野球場



サッカー場での試合光景